

2022年07月19日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ユーロ/ドルのパリティ(1.0000)】

今月上旬(2022年7月上旬)のユーロ/ドルは、パリティ(=1.0000)に迫り下落していました。

通常、パリティ(=1.0000)のような、「切りの良い数値」には、大口の為替オプション取引が組まれているので、なかなかタッチしないのだろう、と、事前に考えていました。

ノックアウト・オプションのように、そのレートにタッチすると消滅するようなオプション取引があるので、一般に、「切りの良い数値」の場合、そのレートにタッチしないように、抵抗する値動きが見られます。

特に、パリティ(=1.0000)は、注目され易い数値だから、そういった抵抗が強いのだろう、と、考えていました。

しかしながら、個人的には、パリティ(=1.0000)を割り込むのは時間の問題、とも考えていました。

米国(FRB)と欧州(ECB)の金融政策を比べると、米国(FRB)の利上げのスピードの方が速く、欧州(ECB)の利上げのスピードは、遅々として進み難い、と考えるからです。

その結果として、当面のところ、米国(FRB)と欧州(ECB)の金利差は拡大する、と考えます。

通常は、金利の低い通貨から、金利の高い通貨に、資金流入が起こります。

つまり、ユーロから米ドルへ資金が移動するという事で、「ユーロ売り米ドル買い」になります。

+++++

事前に思っていた通りに、パリティ(=1.0000)にタッチするのに時間がかかりましたが、先週(2022年7月13日)、ユーロ/ドルは、パリティ(1.0000)を割り込み、安値を更新しました。

その翌日(2022年7月14日)に、0.9950-55水準の安値を付けています。

この安値0.9950-55水準からは、目先の相場は反発(上昇)に転じています。

パリティ(1.000)を明確に消化したので、マーケット(外国為替市場)に、一服感があるのだ、と感じます。

そして、今週の木曜日（2022年7月21日）に、ECB理事会を控えており、その会合では、ユーロの政策金利の引き上げが予想されています。

目先のユーロ／ドルの反発（上昇）は、このユーロの政策金利引き上げを織り込んでいるのだろう、と考えます。

+++++

しかしながら、大局では、ユーロ／ドルの下落トレンドに変化が無いのだろう、と考えています。

米国のインフレ率急上昇のスピードに、陰りが見える点を指摘する意見が出ています。

しかし、各国の金融政策は、実際の経済の後追いになるので、米国（FRB）の利上げは、もともと足りていないのです。

つまり、目先の米国のインフレ率の上昇スピードが鈍くなっても、もともと足りていないのだから、FRBは追加の利上げを行う、ということ。

+++++

欧州（ECB）の利上げは、事前予想通りならば、今週の木曜日（2022年7月21日）に始まるのであって、現時点では、まだ始まっていない。

これから始まるのです。

ECBは、それ以降も、利上げを実行していくのだろう、と予想しますが、米国（FRB）と比べると、一段と遅くなるのだろう、と予想します。

欧州経済が弱ければ、インフレ率が高くても、急激な利上げを実施できない恐れがあります。

+++++

そう考えると、大局で見ると、パリティ（=1.0000）は下落の通過点に過ぎない、と考えます。

+++++

+++++

（2022年07月19日東京時間14:35記述）